

2023年4月15日

## 日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

## 1. 概要

歩行名称	東北東ブロック（2）〔青森県海岸線歩行第2回〕
歩行区間	スタート地点：JR大湊駅      ゴール地点：大間崎（本州最北端）
実施期間	2022年10月21日（金）～10月28日（金）
全歩行距離	94Km

## 2. メンバー表

No	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	65	6日	ワングルOB24期
2	記録	芳森 佳子	70	6日	大阪府立大ワングルOB
3	運転・記録	笠井 浩	60	6日	坂本徹の所属山岳会OB
4	記録	笠井 初子	63	6日	坂本徹の所属山岳会OB
5	記録	味沢 俊治	67	6日	坂本徹の大学1期先輩
6	記録	坂本 和子	60	6日	坂本徹の所属山岳会OB
7	協賛参加：歩行サポート・運転	成田 茂則	77	6日	青森勤労者山岳会運営委員長

## 3. 歩行の概要（10月22日大間町 日の出時刻5時56分 日の入時刻16時45分）

	月 日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	10/21（金）	東京駅発9時36分（はやぶさ13号）⇒新青森駅12時34分着（レンタカー・成田車）＝釜臥山⇒恐山⇒むつ市田名部		
2	10/22（土）	大湊駅 → 川内町まりんビーチ	21.3 km	メンバー表記載の6人 協賛山岳会会員1人
3	10/23（日）	川内町まりんビーチ ← 牛の首岬	20.9 km	
4	10/24（月）	長後 → 仏ヶ浦遊歩道（駐車場⇄海岸） 仏ヶ浦の海岸線歩行	11.4 km	
5	10/25（火）	佐井村願掛岩公園 → 大間崎（本州最北端）	20.1 km	
6	10/26（水）	仏ヶ浦観光遊覧船乗船 仏ヶ浦駐車場 → 福浦漁港（福寿荘）	6.5 km	
7	10/27（木）	福浦漁港（福寿荘）⇄佐井村願掛岩公園 （レンタカー・成田車）⇒大間崎⇒浅虫温泉	14.3 km	
8	10/28（金）	浅虫温泉（レンタカー・成田車）⇒三内丸山遺跡⇒新青森駅14:20着16:38発（はやぶさ38号）⇒東京駅20:04着		

#### 4. 参加費・費用

(1) 参加者延べ日数 6日\*6人=36人日 歩く会会費(参加費)合計 3,600円

(2) 一人当たりの費用(居住地から青森駅までの交通費を除く) 65,500円~74,060円

① レンタカー 9,250円(車借用と保険7,600円、ガソリン代1,650円)

② 成田車ガソリン代 2,500円

③ 宿泊料 1泊目(10月21日):旅館とびない(1泊朝付き) 3,960円/人

2泊目(10月22日):旅館とびない(1泊朝付き) 3,960円/人

3泊目(10月23日):旅館とびない(1泊朝付き) 3,960円/人

4泊目(10月24日):おおま温泉海峽保養センター(1泊2食付き)

シングル7,900円/人、ツイン8,650円/人

5泊目(10月25日):旅館福寿荘(1泊2食付き) 6,000円/人

6泊目(10月26日):民宿みやの(1泊2食付き) 4,800円/人

7泊目(10月27日):ホテル秋田屋(1泊2食付き) 8,350円/人

宿泊料の合計 38,930円(4泊目シングル利用者)~39,680円(4泊目ツイン利用者)

※宿泊料は、すべて全国旅行支援の適用あり(適用後の実支払額を計上)

④ 飲食代 1日目(10月21日飲食店夕食代):3,000円~4,200円

2日目(10月22日飲食店夕食代):3,600円~4,800円

3日目(10月23日飲食店夕食代):2,800円~4,000円

4日目(10月24日夕食時飲み物代):500円~2,000円

5日目(10月24日夕食時飲み物代):なし(旅館からビール1本と日本酒1合が提供あり)

6日目(10月25日夕食時飲み物代):0円~450円

7日目(10月26日夕食時飲み物代):300円~2,560円 飲食代の合計10,260円~18,010円

⑤ タクシー代 820円

⑥ とびない旅館の土産代 200円

⑦ 恐山入場料 500円

⑧ 資料・通信代 1,000円

⑨ 報告・写真記録集 1,500円

⑩ コロナ抗原検査キット代 600円

①~⑩の総計 65,500円(お酒を飲まなかった人)~74,060円程度(お酒をたくさん飲んだ人)

(3) 参考:全国旅行支援による宿泊費等軽減額(一人当たり) 47,120円

○ 宿泊料金の割引総額 25,120円

・とびない旅館2,640円×3泊 7,920円

・おおま温泉海峽保養センター 5,000円

・旅館福寿荘 4,000円

・民宿みやの 3,200円

・ホテル秋田屋 5,000円

○ クーポン受取総額 22,000円

・青森県おでかけクーポン

3,000円×6泊+1,000円×1泊=19,000円

・佐井村宿泊応援地域クーポン

3,000円×1泊=3,000円

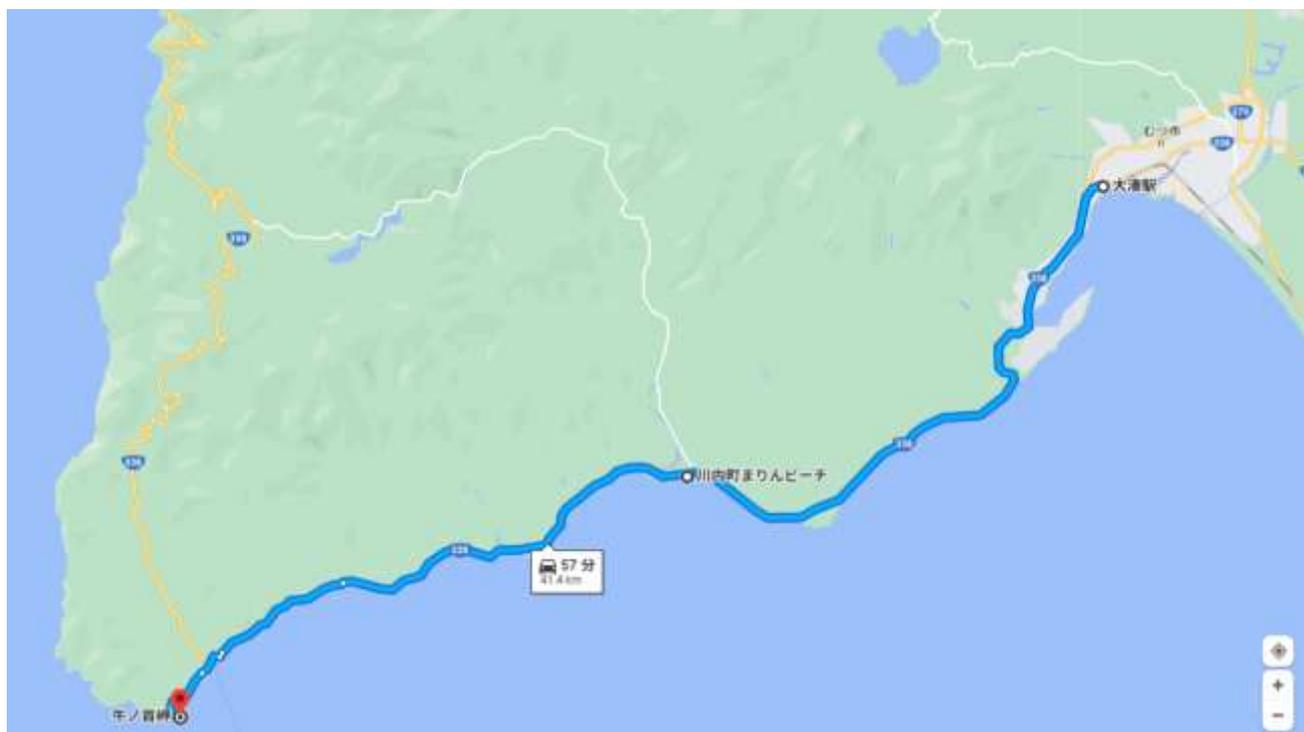
⇒クーポンは飲食代・仏ヶ浦観光遊覧船代・お土産代に使用



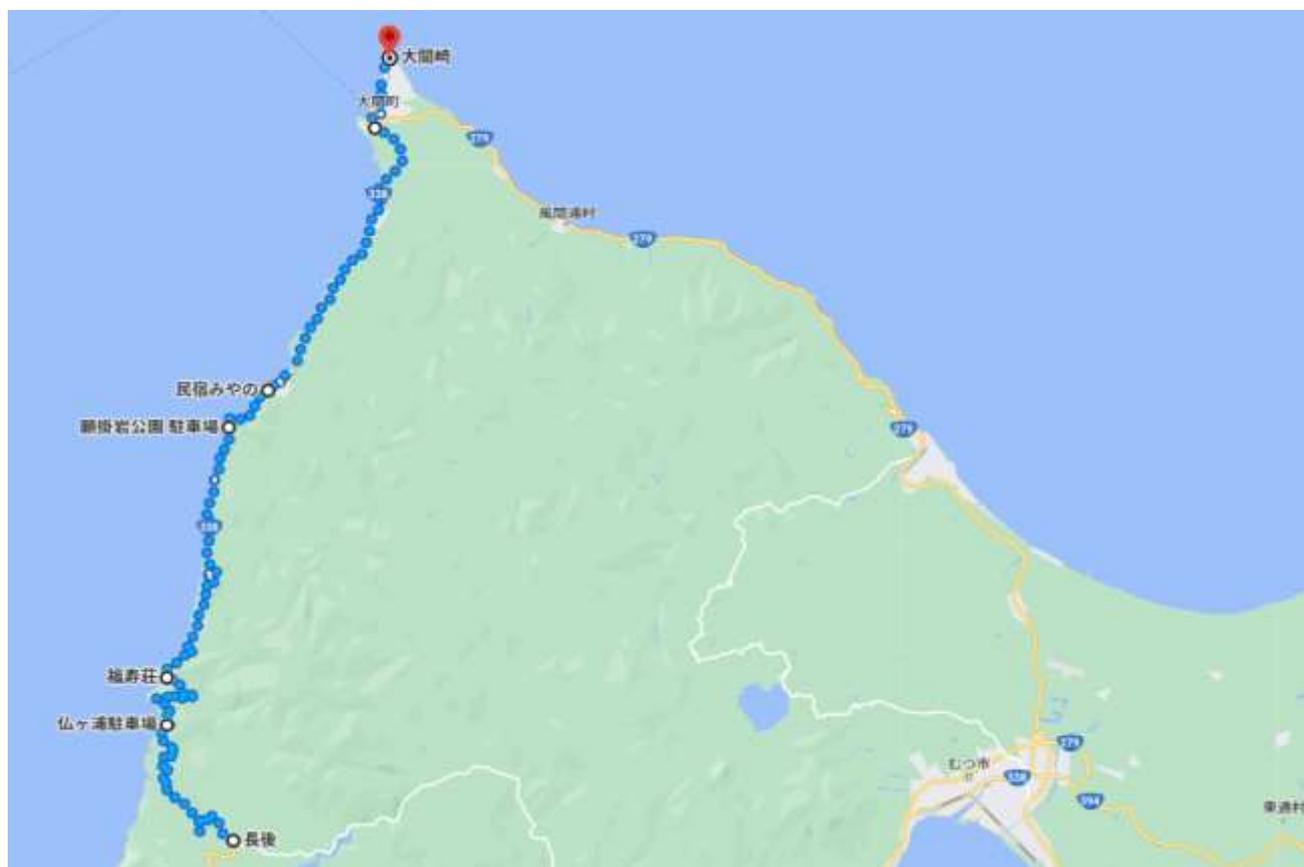
## 5. 歩き方

(1) 歩行ルート (次の地図のとおり)

① 10月22日・23日の歩行ルート

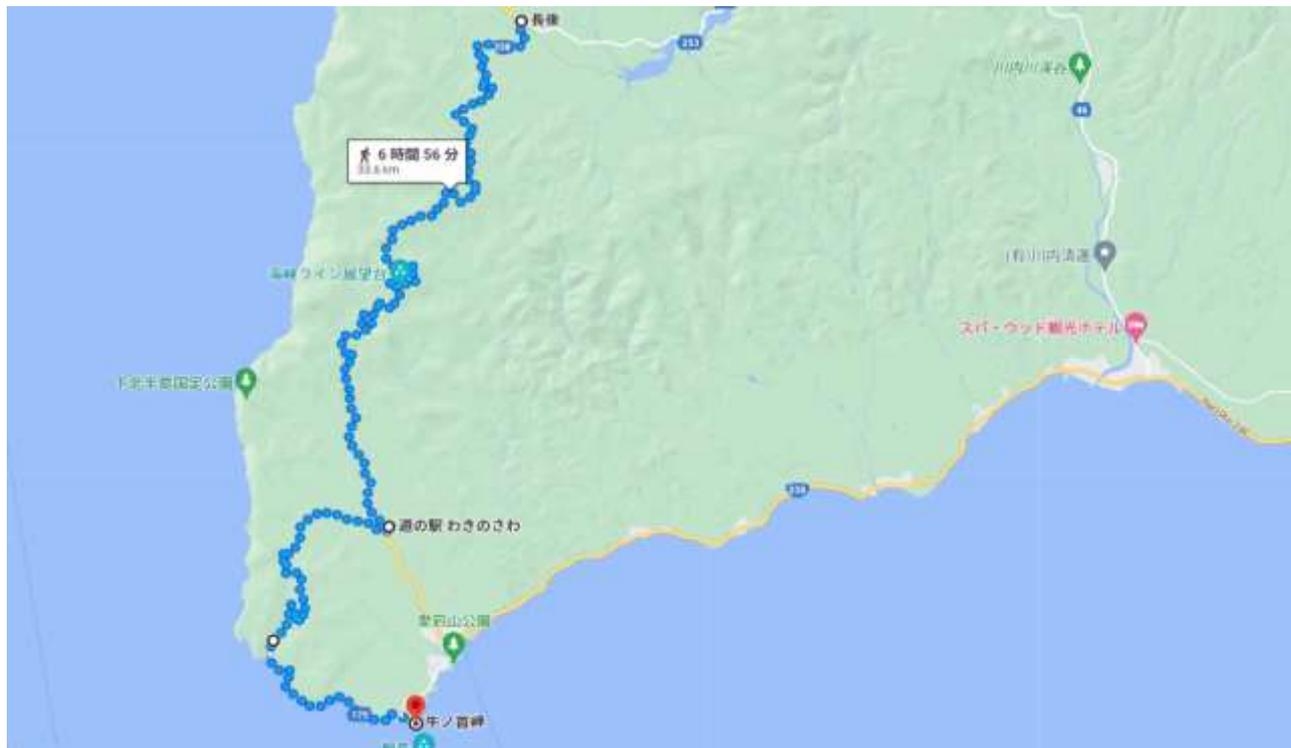


② 10月24日・25日・26日・27日の歩行ルート



③ 今回計画で未歩行となった区間のルート（距離 33.6 km）

自然災害による道路崩壊による通行止めのため、歩行できない区間がありました。次回以降に歩行します。



## (2) 歩行方法と班編成

- ① 歩行の効率化のためレンタカーと協賛山岳会参加者のマイカーを利用しました。
- ② 全員が大湊駅から大間崎（本州最北端）までの 127 km（参考：第 1 回歩行 131 km）を目指して歩行しました。しかし、自然災害による通行止め区間があり、歩行距離は 94km となりました。
- ③ 歩行 1 日目から 5 日目は、目的地点に車 1 台を配車し、全員で出発地点から目的地点に向って歩行しました。目的地点到達後に出発地点にある車 1 台を回収し、目的地点に戻って 2 台の車に全員乗車して宿舎に移動しました。  
歩行 6 日目は、2 班編成（福浦漁港の福寿荘→佐井村願掛公園歩行の班と逆コースの班）とし、佐井村願掛公園→福浦漁港の福寿荘歩行の班は、中間地点で車キーを受け取り、歩行終了後に車でがんかけ公園に移動して合流しました。
- ④ 地理院地図と現地の状況から歩行可能な砂浜などは歩きました。
- ⑤ 歩行ルート上にある名所旧跡に立ち寄りしました。
- ⑥ 宿舎出発は 8 時 00 分、歩行終了は 15 時～16 時を目途（名所旧跡立ち寄り時間を含めて 1 時間約 3 km の歩行速度）として行動しました。

## 6. リーダー報告：坂本 徹

### (1) 第 2 回歩行のコンセプト（企画・実施にあたって）

- ① 第 1 回歩行は実施期間 7 日間（うち歩行日数は 5.5 日）で、131 km 歩行（初日は移動と青森市内観光、2 日目から 6 日目は 1 日 18 km～26 km 歩行、7 日目午前 12 km 歩行して午後新青森駅に移動・帰路に）しました。1 日の歩行距離が長くて余裕がなかったとの参加者意見を踏まえて、第 2 回歩行は実施期間 1 日増として 8 日間（歩行日数は 6 日間）の日程としました。  
また、1 日の歩行距離は 20 km 程度としました。各日の歩行区間・距離は、現地での歩行状況から前日

に柔軟に設定変更も行い、雨天や歩行区間設定変更などにより、ゴール地点の大湊崎に到達できない場合は、次回以降の歩行に繰り越しとしていました。

- ② 初日と最終日は、移動と観光・名所旧跡巡りを行い、歩行は実施しない計画としました。初日は釜臥山展望台と霊場恐山、最終日は三内丸山遺跡を巡りました。
- ③ 初日の東京駅発車時刻（9時36分）と最終日の東京駅到着時刻（20時04分）は、参加者の居住地（松本市、甲府市）を当日出発、当日帰宅できる時間を考慮して設定しました。
- ④ ウイズ・コロナを考慮し、宿泊施設は原則として一人一部屋（夫婦は同室）、不可の場合は二人一部屋としました。結果として10月21日～23日3泊は、味沢さんと成田さんが二人一部屋となりました。また、お互い安心安全に交流できるように、抗原検査キット（検査キット調達費用@300円）によりコロナ抗原検査（自身で検査を実施して所要時間10分程度で結果判明）を歩行実施初日（10月21日）と歩行実施中（10月25日）に行い、陰性確認をしました。



第2回歩行のスタート地点の「JR大湊線 大湊駅」にて

## (2) 第2回歩行を実施して

東北東海岸ブロック第2回歩行は、第1回歩行と同様に、青森勤労者山岳会の協賛により青森県海岸線踏破プロジェクト（第2回歩行）として実施しました。

歩行参加者は全員第1回歩行経験者であり、歩事情報を理解されていることからスムーズな行動ができました。また、お互い気心が知れた関係であるため、更に交流を深めました。

今回の歩行区間には、自然災害による道路崩壊による通行止め区間があったことから、計画どおりの歩行は実施できませんでした。しかし、歩行できない区間の発生により余裕ある行動となったため、10月24日は仏ヶ浦の海岸線遊歩道の歩行、10月26日は仏ヶ浦観光遊覧船の乗船ができました。この結果、下北半島随一の景勝地である仏ヶ浦を遊歩道と遊覧船と歩行ルート上の国道から、その絶景を心ゆくまで堪能しました。

今回歩行したルートは、私が青森市居住時に幾度も車で通行しましたが、歩行目線で見ると美しい海岸線風景が数多くあり、私にとって青森県の再発見となりました。

なお、宿泊した旅館・民宿は、全国旅行支援割を利用できました。また配付された全国旅行支援の地域クーポンは、宿泊した旅館の飲み物代、飲食店での夕食代、お土産代などに利用して、経費削減ができ

ました。

また、旅館・ホテルの予約確保において、むつ市のビジネスホテルが電力関係会社の長期出張者の利用予約で空きがありませんでした。この結果、ビジネス客利用不可の「とびない旅館」に宿泊することができました。オーナーの飛内源一郎さんと濃密な交流ができて、思い出に残る旅館滞在となりました。



第2回歩行のゴール地点の「本州最北端の大間崎」にて

## 7. 歩行の詳細

(1) 1日目：10月21日（金）天気：曇りのち晴れ 記録：坂本 徹

東京から青森に移動、到着後むつ市に移動して名所旧跡巡り（釜臥山展望台と霊場恐山）

東京駅発9時36分はやぶさ13号で新青森駅に向かう。東京駅からは芳森さん、味沢さん、坂本和子さん、坂本徹の4人が乗車、大宮駅から笠井浩さんと笠井初子さんが乗車した。定刻どおり新青森駅に12時34分に到着し、駅レンタカー東日本新青森営業所にてレンタカーを借り受けて、駐車場で成田さんと合流した。

昼食は車中で済ませたので、ひたすら釜臥山に向かった。途中の道の駅「よこはま」にて休憩、物産館「菜の花プラザ」で特産品などを見る。15時50分、釜臥山展望台駐車場に到着。下北半島で最も標高の高い「釜臥山」（標高879m）の頂上近くにある



釜臥山展望台から市街地と陸奥湾を望む

2階建ての展望台に上がる。展望台からの眺めは360°パノラマで、眼下に市街地と陸奥湾と第1回歩行コースを望むことができた。恐山の開場が17時までのため急いで、16時30分に恐山到着。恐山は日本三大霊場のひとつで、長い山道を越えた先にあり、地獄とも極楽とも見えるような不思議な場所であった。霊場・恐山は、今からおよそ1,200年前、慈覚大師円仁（じかくだいし・えんにん）によって開かれた霊場である。地元では古くから「死ねばお山（恐山）に行く」と言い伝えられ、あの世に最も近く、死者への供養の場・故人を思い偲ぶ場として、日本各地から参拝客が途絶えることなく訪れているという。



霊場恐山の参拝コースを辿る

恐山では1周3kmほどの参拝コース（徒歩約40分で巡ることができる）を急いで巡った。笠井浩さんと味沢さんは、境内にある薬師の湯に入浴、短時間で上がって17時10分に出発。今夜のお宿のとびない旅館に17時50分到着した。

とびない旅館は、1961年創業の風情あるお宿であるが、膨大なコレクションと創作物に埋もれている旅館であった。この旅館をひとりで切り盛りするオーナー 飛内源一郎さんは、知る人ぞ知るプラモデルやフィギュアなどホビー系のコレクターで、館内には飛内さんのコレクションが多数展示されていた。かつて宴会場として使っていたという100畳の和室には、飛内さんが30年以上かけて集めたコレクションの展示室となっており、プラモデルやフィギュア、モデルガンなどが所狭しと並んでいた。チェックイン後に、飛内さんに案内いただいた。



薬師の湯に入浴する笠井浩さんと味沢俊治さん



100畳の和室にあるプラモデルやフィギュア、モデルガン

夕食は近くの飲食店「酒遊海峡 善」にて、全国旅行支援の地域クーポン（1人3,000円）を利用してコース料理を堪能した。

(2) 2日目：10月22日（土） 晴れのち曇り 記録：成田 茂則

大湊駅ー<21.3 km>→川内町まりんビーチ

7時00分朝食、8時00分記念写真を撮り、とびない旅館を出発。大湊駅で5名下車し川内まりんビーチへ、坂本さん、成田で車を回送する。



出発前にとびない旅館の前にて



大湊駅前の「ようこそ大湊へ」の横に立つ笠井夫妻

9時30分準備体操をして大湊駅を出発→国道338号。飲めるようになっている湧水に出会う、口に含んで味わう。直ぐに海岸線沿いに左折して防波堤の内側を湧水や前方に芦崎湾、軍艦を見ながら歩く。



防波堤の内側を湧水や前方に芦崎湾、軍艦を見ながら歩く

10時25分 宇田八幡宮で休憩。国道338号に出て、水源地公園内の「北の防人 海望館」に上り、大湊湾・軍艦を眺望する。その後、「むつ市文化財収蔵庫」に入る、窓の外にカモシカが草を食べていた、我々に気づかないのか、座り込んで食べていた。→国道338号。

11時25分 海上自衛隊大湊航空隊入口に展示されているヘリコプターを見に立ち寄り、後を振り返ると釜臥山をバックに白鳥の群れが浅瀬で鳴い



我々に気づかないカモシカ

ていた。海沿いの道を進み、12時00分城ヶ沢地区集会所前で昼食休憩をとる。



航空隊入口に展示されているヘリコプター



釜臥山をバックに白鳥の群れがいた

防波堤の内側→国道338号→海草の多い砂浜歩き→防波堤の内側→13時30分小さな漁港で休憩、子猫が近寄る、あげたお菓子は食べたが、かつぱえびせんは食べない。→国道338号梅の木海岸→海草の多い砂浜歩き→国道338号。



海草の多い砂浜歩き



かつぱえびせんを食べなかった子猫

14時35分 戸沢公民館で休憩→国道338号→下北ワイナリー前、時間が押しているので素通り。

15時55分 川内まりんビーチ着。記念撮影をして、坂本さん、笠井さんは車の回送へ、残りの5名は「スパウッド観光ホテル」へ歩く、16時15分到着し温泉に入る。



本日の目的地の川内まりんビーチにて



川内まりんビーチからの夕景

17時00分 回送車戻り「スパウッド観光ホテル」→とびない旅館へ戻る。

19時00分 居酒屋「くるまざ」で夕食→とびない旅館で飛内氏のミニ講演（兼二次会）でプラモづくりへの熱い思い等を聞く、21時終了。



飛内氏のミニ講演、成田さんの差し入れ「田酒」を飲みながら



居酒屋「くるまざ」の入口にて

(3) 3日目：10月23日（日）曇り時々晴れ一時小雨 記録：笠井 浩

牛の首岬—<20.9 km>→川内町まりんビーチ

朝衝撃の事実が伝えられた。本日も急遽とびない旅館泊。

6時30分から女性陣は、飛内さんと名物「いもすりもち」の作成手伝い。朝食は豪勢なものとなった。「いもすりもち」はお雑煮のような味わい。ジャガイモがもちもちとなるのは不思議だった。

8時15分とびない旅館を出発。途中ファミマで買い出し。本日は当初計画の二日目コースを逆に歩く。9時30分スタート地点の牛ノ首岬駐車場着。坂本・笠井は終点の川内まりんパークにレンタカーを停めに行き遅れてのスタート。それぞれ海岸に降りて鯛島を望む。坂上田村麻呂に係る悲恋伝説の島だが、どちらかというときじらに見える。



海岸に下りて鯛島を望む

先発組は、9時40分に出発するも海岸伝いには行かず駐車場に戻り10時05分再出発。車道を歩く。愛宕山遊歩道は海岸伝いに行くが脇野沢川を渡れず戻り、八幡宮のある標高41Mの愛宕山を登って新愛宕橋を渡った。11時08分脇野沢漁港の乗船発券場。11時35分駐車スペースで休憩。11時50分松ヶ崎の石神屯社(神社)。ご神体として石が堂内に鎮座していた。



脇野沢漁港の乗船発券場



松ヶ崎の石神屯社(神社)

後発の坂本・笠井組は、10時35分出発するが新井田の神社に出る遊歩道コースを見つけ、10時50分再出発。標高81Mの小山を越えたところで船の欠航を知らせる放送が聞こえた。次々入るラインの情報を確認しながら歩く。まっすぐ愛宕山を登り脇野沢漁港へ。12時05分松ヶ崎の石神屯社。事前に先行する味沢さんが般若心経を唱えたとラインで知らせが届く。先発組との差がつかまっていることがわかり休まず歩く。



八幡宮



石神屯社(神社)



般若心経を唱える味沢さん

12時23分先発隊と合流。地図⑤の標高3M地点手前。12時40分までここで昼食。



「青い空はみんなの宝」碑を通過



昼食直前に海岸に下りてポーズ



昼食休憩

殿崎では車道歩きと海岸歩きの二班に分かれた。蛸崎の男川手前で13時35分合流。この辺りでほんの少し雨が降った。長浜はコンクリート護岸で浜は歩けない。先が見渡せる分、名前のごとく長く感じ

た。14時20分宿野部手前、標高8M手前で休憩。地図③から②にあたる車道が大きく内陸に入る部分は全員で海岸歩き。石がゴロゴロしているうえに松が波打ち際まで張りだして歩いて歩にくい。海越しに釜臥山が遠望できた。最後は松に阻まれ海岸線を離れヤブコギに。ただ的確なルートファインディングで最短で車道に出た。



松が波打ち際まで張りだした海岸線を歩く

15時20分休憩。学校前で旧道に入り川内橋を経て再び旧道となり、この日の終点川内町まりんビーチ16時30分着。車が戻るまで「まちの駅川内」で待つ。車を回収してまりんビーチを出発したときはすっかり日が暮れていた。途中激安スタンドで給油、リッター155円。

18時30分、とびない旅館に到着。19時00分からの夕食は、坂本さんのかつての定宿むつプラザホテル内の下北バル。とびない旅館からタクシー2台で往復した。ご当地名物の味噌貝焼きが店により少しずつ具が違うのが面白い。連日のお酒と美食に舌鼓を打った。



海越しに釜臥山が遠望

川内町まりんビーチに到着して

(4) 4日目：10月24日(月) 天気 晴れ 記録：芳森 佳子

長後(国道338号線と県道253号線の交差点) ←11.4km→ 仏ヶ浦 駐車場(遊歩道←→仏ヶ浦)

8時00分とびない旅館出発。朝からハプニング発生！脇野沢～野平(のだい)間通行止め判明により、コース変更余儀なくされ、本日は翌日予定の後半部分を歩行することになった。

10時10分 海峡ライン338号線、野平高原近くの交差点から仏ヶ浦に向かってスタート。そのせいで(お陰で?)本日の歩行距離が短くなり、しかも車の少ない山中の舗装道路歩き。サルナシや山ぶどうなどを見つけては、成田さん始め皆さんに味や調理法を教えて頂いたりしながら、心地良い秋の日差しのもと足取り軽く紅葉を楽しみながら歩いた。



スタート地点の長後



山中の舗装道路歩き



サルナシや山ぶどうを見つけて

11時15分～35分牛滝分岐にて昼食 11時35分早くも後発組が合流



牛滝分岐にて昼食



後発組が合流して紅葉の国道を歩く

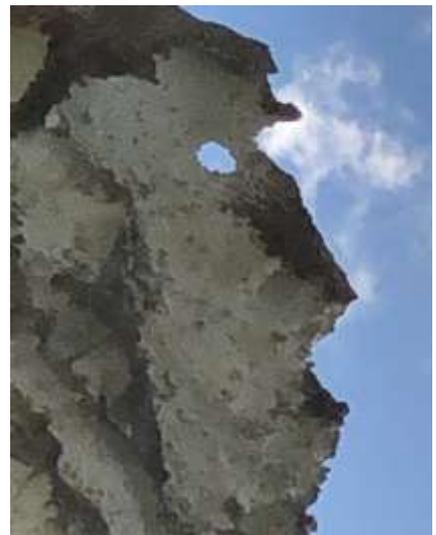
13時15分仏ヶ浦上駐車場着 あこがれの仏ヶ浦遊歩道を夢見心地で散策。車を取りに行っていての間も、火山灰を主体とする凝灰岩が侵食されてできたという、まさに「神のわざ 鬼の手づくり」(大町桂月詠)の奇岩群を名残惜しく眺められた。



仏ヶ浦駐車場に到着



仏ヶ浦の海岸に下りていく



仏ヶ浦の奇岩(サルの顔!?)



仏ヶ浦の遊歩道を歩く



仏ヶ浦の奇岩の前で



仏ヶ浦の絶景との出会い

15時40分本日の宿「おおま温泉海峡保養センター」に向けて出発。車中大間のマグロに胸躍らせながら。そして…見事に期待に答えてくれた大トロ。それにも負けない「陸（おか）マグロ」とも呼ばれている大間牛が、至福の時を与えてくれた。

一部次回まわし等計画変更大変でしょうが、私にとっては、昨日までの二日間の疲れで早くもダウンしそうだった頭と体に、旅の女神様からのまさかのプレゼント。中休みと素晴らしい恩恵のお陰で、いっきに元気回復！翌日からの歩行の鋭気を頂いた一日であった。

(5) 5日目：10月25日(火) 天気 晴れ 記録：笠井 初子

佐井村願掛岩公園 -<20.1 km>-大間大間崎(本州最北端)

7時00分朝食。8時00分おおま温泉海峡保養センター出発。出発前にコロナ抗原検査キットで全員検査をする。佐井のコンビニで買い出し後、8時50分願掛岩駐車場の鳥居をくぐり次の鳥居まで登る。鳥居から100M位右に進んで下り、海岸に行かれるかと進んでみるが無理そうで戻る。



出発前におおま温泉海峡保養センターにて

9時00分大間に向けて出発。後発坂本徹さん笠井浩さんは、大間に車を置きに行き遅れてのスタートとなる。願掛岩頂上まで登った2人は眺めが良かったそうだ。海岸伝いには歩けず道を探す。石の階段を降りて、民家の庭を通り浜に降りて岩礁海岸を進む。とても綺麗だった。



願掛岩駐車場の鳥居をくぐり次の鳥居まで登る



後発組は願掛岩に登頂

9時15分矢越漁港。10時20分佐井村海峡ミュージアム。2階で佐井村海峡のビデオを観る。仏ヶ浦や佐井村の歴史など知れ良い機会となる。物産展で味沢さんが素敵な帽子を購入された。後発組の二人と合流して明日の遊覧船の予約も完了して11時15分出発。おおむね海岸を歩く。

12時00分遠浅の岩礁海岸で昼食。津鼻崎の手前で海岸を離れ道路に向けヤブコギ開始。野ばらのトゲが痛い。巡視路をあてにして風力発電の風車を目指すが手前に有刺鉄線が張り巡らされて立ち入り禁止となっている。ヤブコギを避けるためほんの少し立ち入らせて頂いたが、有刺鉄線をくぐり抜けるのに大格闘をする。13時35分ヤブコギ終了。

13時35分有刺鉄線を回り込んでヤブコギ終了。



昼食休憩の場所にて



岩礁海岸を歩く



海岸を離れヤブコギ突入前



ヤブコギ終了し、風車下の原っぱを歩く

風車下の原っぱに出る。車道に出てやれやれと休憩。しばらく車道を歩く。14時30分奥戸（おこっぺ）の郵便局。小奥戸では広大な土地に原発が建設中だった。大きく内陸へ迂回してそのまま大間へ。15時35分大間郵便局前。15時55分割石崎。



大間崎に向って堤防の道を歩く

16時30分大間崎到着。後発組が願掛岩に車を回収しに行く間、土産物を買ったり夕日を眺めたりして過ごす。大間崎から見る海に沈む夕日はとても美しかった。

18時30分佐井村の旅館福寿荘着。ご夫婦に温かく迎えられた。



「ここ本州最北端の地」の碑



大間崎から見る海に沈む夕日



海鳥と美しい夕日



「まぐろ一本釣の町 おおま」オブジェ



福寿荘の豪華な夕食



二次会は成田さん差し入れの「田酒」と福寿荘提供の「地酒」

(6) 6日目：10月26日(水) 天気 晴れ 記録：味沢 俊治  
 仏ヶ浦観光遊覧船乗船、仏ヶ浦駐車場<6.5 km>→福浦漁港(福寿荘)  
 9時00分に「福寿荘」出発、佐井港まで車で移動。ガードレールに猿。



出発前に福寿荘にて



福寿荘は田中商店も経営



ガードレールに猿

60人乗りの船で仏ヶ浦クルージングへ。乗客は40人ほど、ほとんどはクラブツーリズムの客。津軽半島から下北半島までをバス3日間で回るそうだ。出港10時半、海は穏やかな快晴。対岸の北海道も下北半島もよく見える。しかし、乗客は船外には出られず、展望は窓側を占めたツアー客でベストとはいえない。それでも仏ヶ浦の全貌を海から理解することができた。11時00分、仏ヶ浦内の港に着岸。そのあと出港までの30分は自由行動。海岸を行けるところまで、ちょっとした岩登り気分以南側へ行ける限り300メートルほど海岸線を往復。



観光遊覧船の前にて



観光遊覧船内の様子



仏ヶ浦の海上からの絶景展望

佐井港に戻ったあと、車で大間崎に回り昼食。本州最北端の食堂「お食事処かもめ」でマグロ丼をいただく。漬物とともに「マグロの胃」の佃煮が添えられる。大間マグロを娘に送ったら、あとで娘の高校の後輩の家が、その土産物屋だったことが分かる。こんなところに知り合いがいるのだ。大間崎には、石川啄木の歌碑がある。「東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたわむる」は、函館にむきあうこの地で詠まれたという。



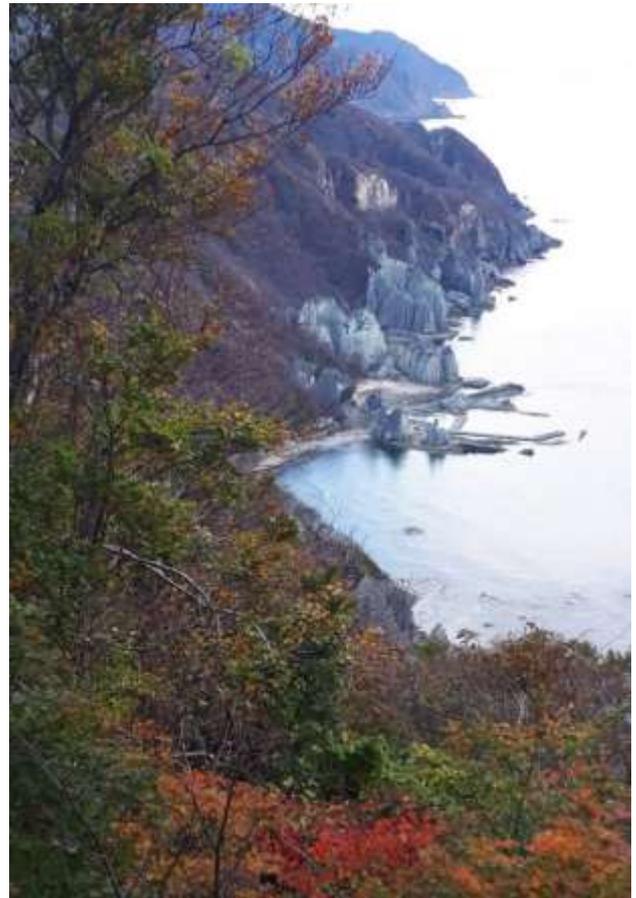
大間崎にある「お食事処かもめ」

全国旅行支援クーポンでいただいた「マグロ丼」

この日の歩行は午後のみ。仏ヶ浦駐車場から朝出発した福浦まで。13時45分出発。直線距離4.5kmぐらいたが、等高線に沿った国道338号は、八柄間山がつくる福浦崎に阻まれて大きくV字に湾曲して6kmから7kmは優にある。最初に芳森・成田・坂本和子・笠井初子・味澤チームが出発、福浦まで車を置きに行った坂本徹・笠井浩チームは遅れて先行チームを追いかけた。



出発地の仏ヶ浦駐車場にて



国道から仏ヶ浦の絶景を見下ろす



仏ヶ浦を出発すると光芒と津軽半島の絶景に出会う

16時半、後発チームも目的地の福浦神社に到着。夕焼けのなか、空気の冷たさに東北の秋を感じる。歩行最終日の「民宿みやの」の夕食は、この旅のすばらしい食事のなかでも、とりわけ絶品で、旅の疲れを十二分に癒やしてくれた。

夕食後の二次会は、成田さんがライフワークとして取り組んでいる南八甲田登山道問題のミニ講演会（現状報告会）を行いました。



目的地到着後に福寿荘の前にて



「民宿みやの」の夕食は最も絶品であった



夕食時に民宿女将との歓談



ミニ講演会（現状報告会）

(7) 7日目：10月27日（木） 天気 晴れ 記録：坂本 和子

福浦漁港（福寿荘）→佐井村願掛岩公園 歩行後⇒大間崎⇒浅虫温泉

8時00分民宿みやのを出発、途中コンビニ710（なないちまる）でお昼を調達し願掛岩駐車場へ。



出発前に民宿みやのにて

全員で男願掛岩に登り、途中の木造のお堂で味沢さんが扉を開け中に入ってお経を唱え、最終日の歩行の無事と安全を祈願する。



男願掛岩山頂直下にて



本日の歩行ルートをバックにして



木造のお堂で味沢さんが扉を開けお経を唱える



女願掛岩（左）と男願掛岩（右）を見上げる

車の回収時間短縮のため、駐車場手前でA班B班に分かれ、A班はそのまま海岸線へ、B班は車で福寿荘へ向かう。ゴール地点とスタート地点から共に歩き始め、途中ですれ違い各々のゴールを目指す交差縦走の始まりである。

(A班)

8時50分スタート、30分程車道を歩いて、階段で海岸に下りる。右手に海、願掛岩を背に15分程歩くがその先進めず、再び階段で道路に戻る。

右手の海で一艘の小舟が何やら漁をしているのを眺めながら、9時40分磯谷漁港に到着。地元の人は何人も出て、敷き詰められた砂利の上に大きな昆布を干している。腰をかがめ一枚一枚丁寧に広げて並べる昆布干しは、中々労力の要る作業だ。

漁港内を進み、一番端にある赤い鳥居とタイル張りの珍しい社を見て、9時58分そのまま海岸線に出る。前回春の歩行より砂粒が荒く少し足を取られながら南下し、漂流物や流木が増えてきた穴澗沢の手前まで行き、これ以上進めない為引き返す(10時24分)。

道路へ上がれそうな斜面を探りながら初内沢まで戻り、少し休憩して、踏み跡らしきものが残っている斜面を登る。途中から松林になり、前日まで



昆布干し作業

のヤブに比べたらとても楽に道路に出ることが出来た（10時46分）。



赤い鳥居とタイル張りの珍しい社



美しい海岸線を歩く

一服して、今度は道路を進むことに。やがて右下に長後の漁港が見え、近道の階段を降りて、11時40分、先に腰切岩に到着していたB班と再会する。数時間前に別れたばかりなのに、何だか嬉しい。車のカギを受け取り、互いの情報を交換後、再び別れてA班は腰切岩神社で昼食にする（11時50分～12時10分）。岩の周辺の海はエメラルドグリーンに透き通っていて波も無く穏やか、遙か向こうの対岸には津軽半島が細長く横たわっていた。



長後の漁港



A班B班が立ち寄った腰切岩神社



腰切岩の海岸に下りる

後は、やや紅葉も終わりかけた山の中の長い車道を、カーブを繰り返しながら緩やかに登って行く。今日は青空が広がりとても暑い。13時20分ゴールまであと4km地点で10分程休憩し、ようやく下り始めると、入江の奥にひっそりと広がる福浦の集落が少しずつ姿を現し、14時05分オレンジ色の見慣れた福寿荘に到着した。



長後の集落と函館山遠望



A班B班とも歩いた海岸線

福寿荘の方にお礼の声をかけ、車で願掛岩に向かう。14時40分B班と合流し、大間経由で浅虫温泉に向かい、18時10分ホテル秋田屋に到着した。



福寿荘出発前のB班



福寿荘到着後のA班



ホテル秋田屋の夕食



ホテル秋田屋ロビーの青森ねぶたの前にて

(8) 8日目：10月28日(金) 天気 晴れ 記録：坂本 徹

浅虫温泉⇒三内丸山遺跡⇒新青森(16時38分発で帰途へ)

8時55分ホテル秋田屋をレンタカーと成田さん車で出発。三内丸山遺跡駐車場に9時35分到着。ここで世話になった成田茂則さんとお別れ、駐車場にてお礼の挨拶をしてお見送りした。

三内丸山遺跡では、10時00分からのボランティアガイドによる案内に参加した。三内丸山遺跡は、青森県中央部の青森市に位置し、八甲田山系からのびる緩やかな丘陵の先端部、沖館川沿岸の標高約20メートルの海岸段丘上に立地している。縄文時代前期中頃から中期末葉(約5900-4200年前)の

大規模集落跡である。2021年7月27日、ユネスコにより「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録された。遺跡には住居群、倉庫群のほか、シンボリックな3層の堀立柱建物(トラス)が再現されており、資料や出土品の展示施設「縄文時遊館」もあった。



駐車場にて成田茂則さんとお別れ

ボランディアガイドの説明の中で、「縄文時代の平均寿命は30歳くらいなんです」とあった。我々は縄文人の2倍超を生きていることに有難く思い、喜びを感じた。

11時40分、昼食のため三内丸山遺跡の時遊館内にある「れすとらん五千年の星」に入った。縄文時代に食されていたと思われる食材を使った料理や、郷土料理などがあり、各自お好みの料理を食べた。



六本柱建物（復元）と大型竪穴建物（復元）

六本柱建物にて

ゆっくりと昼食休憩をとったあと、レンタカー運転の坂本以外は、新青森駅まで徒歩で移動した。新青森駅でレンタカーを返却、レンタカーはフィットS、走行距離は997kmだった。



世界遺産の縄文遺跡群ロゴマーク

お世話になったレンタカー

14時20分レンタカー店舗の前で集合写真を撮影し、解散となった。帰宅者4人は16時38分発はやぶさ38号に乗車し、帰途についた。笠井夫妻は延泊して10月30日（日）に帰宅した。



新青森駅の駅レンタカー前にて



新青森駅から帰途に

## 8. 参加者の感想

### 【芳森 佳子】

夢は持つものですねえ、仏ヶ浦と大間のマグロ！！いや、夢以上の充実感を頂いた8日間でした。前回は全員の方と「初めまして」でスタートした青森県海岸線歩行。肉体的疲労はもちろん、精神的疲労も。ん？そんな風には見えなかった？ そうなんです、恥ずかしながら意外に情けないんです。その上今回は体調悪く不安だらけのまま青森に。

が、半年ぶりにひと目皆さまのお顔を拝見した瞬間！「こんにちは」のひと言を交わした途端！それが杞憂だったかのように急に元気が出てきました。海岸線歩行、何が良くて何のためにやっているのか、正直私には今のところピンとこないのですが、ステキな方達のお仲間に入れて頂き、一緒にルンルンワクワク少しドキドキ？楽しい時間を過ごさせて頂いたこと感謝しかありません。これも坂本様の綿密な計画に基づくご準備と手配、成田様の頼もしいサポート、皆さまの絶大な協力の大船に乗らせて頂いているからこそ！更に今回はとてもお得な旅をさせて頂き、重ねて感謝です。皆さま今回も有難うございました。 あこがれの仏ヶ浦にて



### 【笠井 浩】

海岸線歩行参加2回目。8月からやや体調を崩していたが、一度参加してイメージがついていたので余裕をもって歩けた。途中、道路通行止めがあったが柔軟な計画変更でかえって変化にとんだ歩行になったのではないと思う。車道を離れて真の海岸線歩きを模索するパターンも定着した。

坂本さんには今回特に宿の予約に苦労してもらったようで感謝したい。おかげでいろいろな宿が楽しめた。とびない旅館はなかなか巡り会えない宿(帰宅してからネット検索して回顧した)と思うし、佐井村の旅館と民宿は抜群に料理がよかった。毎日朝晩たらふく食べビールもたっぷり飲んだ。貧乏性の私には全国旅行支援も嬉しかった。解散後延泊して龍飛岬を歩いたが、大勢で歩いた後なので少し寂しかった。次回も皆との再会を楽しみにしています。



願掛岩をバックにして

### 【笠井 初子】

2回目の青森海岸線歩行でした。

前回体験した様な渡渉もなく、一日中過酷な歩行もなく、通行止めで行程変更もあり仏ヶ浦を歩いて見学したり、再び遊覧船で訪れたりと時間に余裕があって楽しめました。

何と言っても素晴らしかったのは食事が美味しかったことです。話題の多いとびない旅館に3回泊まれた事も楽しい思い出になりました。

少し余計な事を書かせて頂くと、全員高齢者でもあり



大間の漁船をバックにして

これからも健康で海岸線歩行等々を続けるためにも「休肝日を設けても良いのでは？」とも思いました。大間でのお土産選びも楽しい思い出です。

良く歩き良く食べ、美しい景色の海岸線を歩かせて頂き、今回も手配計画して下さった坂本リーダーに感謝申し上げます。有難うございました。車を提供して下さいました成田さん有難うございました。御一緒させて頂きました皆様有難うございました。

### 【味沢 俊治】

何といても「とびない旅館」。玄関に踏み入ったときの驚き。事前準備完璧の坂本さんが最初の2日間に選んだ宿です。フロント前の上がりかまちに立つ段ボール製のロボットは、顔を入れるつくり。メンバー全員がのけぞったはず、みな平然をとしていました。私は物珍しさと探究心が起動して、泊まるという現実を忘れ、探検旅行の気分でした。

大広間に案内されて、主人飛内源一郎さんのコレクションを見せてもらいました。彼の解説よりも、プラモデル(箱までちゃんと残ってる)やフィギュアたち、たくさんのガンコレクション、その膨大な存在

そのものに、圧倒されました。この空間が醸し出す空気に酔い気味でありました。かつて子ども時代に私たちが一度は憧れたありとあらゆるものが、半世紀の時空を超えて、この場所に置かれていました。

下北の田名部歓楽街に住むのが教育に悪いということで、少し離れたところに引っ越して転業したのが、この旅館の始まりとのことです。別館が廃墟となって歓楽街の路地を抜けたところにありました。泊まった本館は県道273号沿いの一等地、向かいには三つ星ホテル「むつパークホテル」があります。飛内さんのコレクションの原点は、まだ旅館の経営が順調だった幼少期のそういう風景のなかにあったはずで

とはいえ、広大な旅館のなかに所狭しと置かれた数知れないものは、いわゆるオタクたちにとってお宝の山であるに違いありません。それどころか、現代アートのフロンティアたちからも、驚嘆のまなざしが向けられるかもしれません。物置と化した客室には、いろいろなものが置かれているなか、プラモデル作成のアトリエ部屋もありました。完成したプラモデルに色づけするためのラッカーが何色も並べられた作業机、軍事とメカニックに関する雑誌や本の数々が棚に並べられていました。飛内さんのオタク人生60年が、この旅館には詰まっていた。

完璧な坂本さんにしては珍しく、3日目の宿の予約がとれていないことが判明して、この旅館に3日も宿泊することになりました。最初の2日は外の温泉に入ったため、幸か不幸か3日目の晩に初めてこの旅館の男湯に浸かりました。しっかり掃除された浴室の壁にはおしゃれな絵と大湊のシンボルである釜伏山が飛内さんの手で描かれていました。湯船に入って足を伸ばし上を見ると、天井の蛍光灯に邪魔されながら下北半島が描かれていました。これも彼の遊び心と感じました。

旅というものの偶然と非日常性に幸せな気分となったひとときでした。

### 【坂本 和子】

今回の海岸線歩行は、下北半島という大きなマサカリの底辺と刃の部分でしたが、とてもバラエティーに富んでいました。

恐山という霊山、軍艦や釜伏山のレーダーなど本州の大事な軍備防衛を担う大湊、同じむつ市ですが賑やかな繁華街のある田名部、カモシカや北限のサルの子息地、奇岩が屹立する仏ヶ浦や、願掛岩などの柱状節理で形成された岩礁、海峡を隔てた直ぐ向こうに函館山を望める大間崎、切り立った岩が続く海岸線の入江



仏ヶ浦の荒波を見つめて

部分に少人数で営む漁村とそこで暮らす佐井の人々、海峡で生まれた豊富な魚介類や海藻などの海の幸等々。

青森市内に数年間だけ住んでいた経験のある私にとって、下北半島は青森県内とはいえ距離も関わりも遠いイメージでしたが、こんなにも特色豊かな地域であったのかと、まだ半島の半分にして感じる次第です。もう一つ忘れられないのは、あろうことか2泊ならぬ3泊までもお世話になることになった、とびない旅館の飛内さん。

今更彼の説明には及びませんが、一生の内に一回出会うか否かという程の強い個性と異文化に触れることになり、これも旅のダイゴミなのでしょうか？ 又一个未知なる世界を覗き見ることが出来ました。



絶景に出会える海岸線を歩く

### 【成田 茂則】

まず初めに国道 338 号線脇野沢～野平間の通行禁止の情報を地元の者として把握していず、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

今回も天候に恵まれ、津軽半島の山々、北海道の山並み、振り返れば釜臥山の雄姿、そして若い時のしょっぱかった登攀を思い出させた佐井から見えた縫道石山・西岩稜、旧知の方々と海岸線を堪能することが出来ました。

行ったことの無かった恐山、若い時分訪れたが、天然マイタケを発見し見られなかった仏ヶ浦に2度も見参、念願が叶いました。

大湊、至る所に水が湧きだしている。常々「大湊は水が豊富な所だよ」と話していた大湊在住の故松島静吾県岳連会長とお酒を酌み交わした懐かしい思い出に浸りながら歩いていました。

今回も坂本リーダー始め皆様に親切にしてください、楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございました。



美しい仏ヶ浦の海岸線を歩く